

# 香取遺産

Vol.120

閩生涯学習課

☎(50)1224

いわがさぎじよあめと  
岩ヶ崎城跡  
未完の城



▲岩ヶ崎城跡（市役所屋上から）

天正18年（1590）、豊臣秀吉による小田原城攻めで北条氏が滅亡すると、当地域を治めていた国分氏は、徳川家康の関東覇権に際し、さして戦うことなく大崎城を明け渡しました。大崎城には、矢作領四万石を与えられた鳥居元忠が入城し、岩ヶ崎城の築城に着手します。

元忠は、家康の忠実な家臣として知られる武将です。家康と元忠は、幼少時代を北条氏の人質として過ごします。元忠は、その後も家康に従い、元龜元年（1570）の姉川の戦いから

天正18年に武州岩槻城を落とすまで、幾多の戦功をあげています。矢作領四万石は、その褒美と言えます。しかし、家康には別に、元忠を配することで常陸の佐竹氏を牽制する意図がありました。元忠もそのことは承知していたとみるべきでしょう。

元忠が築城に選んだ場所は、利根川を望む独立丘陵で、常陸二国を見渡す要衝の地です。城跡の西側から北側、東側は崖面

で、防御性にも優れています。

ところが、元忠は、慶長5年（1600）に京都の伏見城で戦死してしまいます。遺領は、第二子忠政が継ぎましたが、同7年に陸奥磐城へ国替えとなり、城は未完のまま廃城になったと伝わります。城跡に残る小字には、中央に「城之内」「城山」、その西側に「堀之内」、南側に「唐堀」、城の正面を示す「大手」と続き、城の概要は読み取れそうです。

築城着手から十数年、どの程度まで完成していたのでしょうか。そして、家康の意図をくむ元忠は、どのような城の完成図を描いていたのでしょうか。元忠にとって、岩ヶ崎城が未完の城で終わったことは、心残りであったと思います。

城跡には、市天然記念物「岩ヶ崎の森」があります。稻荷神社と愛宕神社の社叢です。森に抱かれた城跡は、地元では城山と呼ばれ、親しまれています。